

令和4年度特別企画展2「サルバドール・ダリ」  
 3月26日（日）までの午前9時30分～午後4時30分  
 ※期間中は休みなし。



特集

# 感動の裏側

地域の歴史や美術工芸を紹介する企画展や、国内外のアーティストが制作した芸術作品を展示する特別企画展を開催し、訪れる人に感動を与え続けている市立博物館。皆さんも一度は足を運んだことがあるのではないのでしょうか。今回は、市立博物館で働く学芸員の仕事にスポットを当て、展示会が出来上がっていく過程を追いながら「感動の舞台裏」に迫ります。



■問い合わせ先  
 市立博物館  
 (☎ 35-0700)

## 市立博物館の概要

### Introduction

開館 1977（昭和52）年4月20日  
 建設費 5億8,882万2,000円  
 敷地面積 4,879.38㎡  
 建築面積 1,511.34㎡  
 収蔵資料 約2万点（2022年3月末現在）



▲着工前（白線が建物配置、右は廃止された市営野球場）

市立博物館は、フランスの建築家ル・コルビュジェに師事した日本近代建築の巨匠・前川國男が設計しました。

外壁の打ち込みタイルや、内壁のコンクリートの研（はつ）り仕上げ、コンクリート打ちっぱなしの丸型の柱など、前川建築の特徴が随所に見られるとともに、作品や空間を美しく見せることへの信念が感じられる建築となっています。

市立博物館では、年間4～5本の企画展や特別企画展を開催しています。毎年好評の企画展「弘前ねぶた展」や、過去には浮世絵や日本画などをテーマにした特別企画展を開催したこともあります。



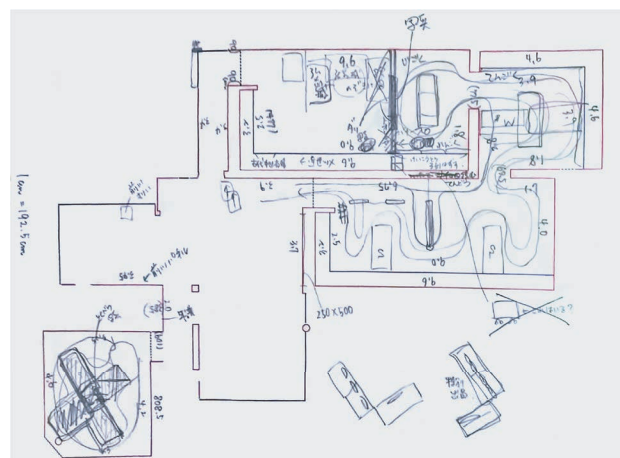
▲前川レッドの色彩が印象的なシャッター（通常は展示品保護のため閉鎖）

## 展覧会ができるまで

### Making of the Exhibition

特別企画展の展示資料は、市立博物館の学芸員と企画協力会社が作品一つ一つの大きさや色合いなどを考慮し、全体のバランスが取れるよう考え抜いて配置しています。同じ題材の展示会でも、美術館や博物館ごとに面積や展示ケースが異なるため、毎回工夫を凝らしています。

一方、企画展は、学芸員と博物館の職員全員で力を合わせて作り上げます。



▲展示マップ（設計図）のラフ案。設計図完成までに何度もラフ案を作って方向性を固める。



▲関東方面から届いたダリの作品を館内に搬入。作品や展示ケースなどを設計図に従って移動する。



▲専門スタッフが作品の位置間隔や水平角度を細かく確認しながら手際よく展示作業を進める。